



大間敷地内に活断層か

東洋大「10万年で2回活動」 教授ら

電源開発（Jパワー）いた活断層が存在する

（）が建設工事を再開 可能性があることが、した大間原発（青森 三日までの渡辺満久東 県）の敷地内に、十 万 洋大教授（変動地形 年前以降に繰り返し動 学）らの分析で分かっ

た。

原子力規制委員会の 田中俊一委員長は三日 の記者会見で「大間原 発に疑義があれば、早 急に現地調査を含めた 準備をしたい」と、過 去の調査資料の点検や 新たな調査を検討する 考えを示した。

渡辺教授らは既に、 周辺の地形の分析から 近くの海底に未知の活

断層があり、原発直下 で地震を繰り返してき た可能性を指摘。今回 の敷地内の断層は、そ うした地震に伴ってず れた可能性があるとし ている。

渡辺教授らは、二〇 〇四年三月の建設許可 申請前に、原子炉建屋 の北二百〜三百メートルの場 所に掘った試掘溝の図 面に注目。岩盤が上下 に一層以上ずれ、その 上に載る十萬年前以降 の地層も上下にずれて いた。

地層が古いほどずれ が大きく、渡辺教授は 「断層活動によるずれ で、少なくとも二回は 活動している」と指 摘。断層の形状や原子 炉建屋に与える影響、 他に敷地内に断層が ないか詳しく調査する 必要があるとしている。

電源開発は、ずれば 地下の粘土が水を吸っ て膨張してきたと説 明。活断層と指摘され たのは薄い粘土の層が 連続する「シーム」 で、活断層ではないと している。

青森で建設再開

大間南西にも14キロ活断層

建設工事が再開したばかりの 電源開発大間原発（青森県）の 南西四十〜五十キロの海域に、こ れまで知られていなかった海底 活断層があることが十三日、独 立行政法人・産業技術総合研究 所と東海大のチームによる調査 で分かった。



産総研 電源開発把握せず

の耐震安全性確認で問 題となれば、工事の続 行や運転開始に影響す

再調査の指示を 渡辺満久東洋大教授 の話 われわれが二〇 〇八年に存在する可能 性を指摘した下北半島 西岸沖の海底活断層の 南方延長部分である可 能性がある。電源開発 も海底を調査したはず だが、活断層があるこ とが、活断層があるこ とを十分注意しなかつ たのではないかと。原 子力規制委員会は再調 査を指示するべきだ。

活断層ないと判断 電源開発の話 敷地 から離れているため、 平館海峡拗曲が見つか った海底は調査してお らず存在は把握してい ない。原発付近の海底 などの調査結果から、 指摘されるような活断 層はないと判断してい るが、原子力規制委員 会から追加調査などの 指示があれば真摯（しんしん）に対応したい。

Ust 番組：フクロウ FoE チャンネル (FFTV)
2012年10月17日(水)
20:00~ 週刊 FFTV 大間原発、最新情報 他
21:00~ 特集 今こそ「20 ミリシーベルト基準」を問う



※おすすめアーカイブ
どうする大間原発 (1) -小笠原厚子さんを迎えて-
くわしくは：
<http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/FFTV.html>
または
「避難の権利」ブログから

1 何が問題？大間原発

大間（おおま）原子力発電所とは：

青森県下北郡大間町に建設中の電源開発の原子力発電所。世界に類をみない、改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）で、フルMOX燃料使用可能という特異な原発。1982年、原子力委員会により電源開発を実施主体とする計画が決定されるが、炉心建設近くの住民が用地買収に反対したこともあり、2008年5月まで着工が行われなかった。

原子炉形式：改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）、定格出力：138.3万kW、
使用燃料：MOX燃料、低濃縮ウラン燃料

経験のない電源開発が、フルMOX原発を動かす

- 大間原発は電気出力138.5万kWの改良型不沸騰水原子炉（ABWR）でフルMOX燃料装荷可能とする設計ですが、世界に類例をみないものです。運転するのは実機で実験するという事です。
- フルMOX燃料の場合は装荷されるプルトニウムの量は約6.5トン。「もんじゅ」が約1.4トンです。核分裂性のプルトニウムを約7割とすると約4.5トン。これは長崎原発550発から750発分に相当します。ちなみに、原子炉級プルトニウム1グラムは超猛毒物質で、一般人の制限値の2億人分です。

厄介で危険なプルトニウムの処分のための原発？

- 電源開発は原発を持っていないためにプルトニウムも所有していません。そのため他電力が使用済み核燃料を再処理して取り出したプルトニウムを「譲渡（有償か無償か商業上の秘密として非公開）」してもらおうのですが、まずは東電からとなっています。
- 使用済みのMOX燃料はウラン燃料と比べて発熱量が高く冷えるのにより長期間かかるため、冷却失敗する事故の可能性が高くなります。
- 六ヶ所再処理工場は、トラブル続きで19回も完工が延期され、高速増殖炉は実現のめどがたたず、核燃料サイクルは破綻しています。それなのに政府は六ヶ所再処理工場を動かすことを青森県に約束しました。六ヶ所を動かすためには、その結果生じるプルトニウムの受け皿を、国際的に示す必要があります。大間原発の建設は、プルトニウムを引き受ける単なるアリバイ作りの可能性もあります。

大間原発の直下、近傍に活断層！！

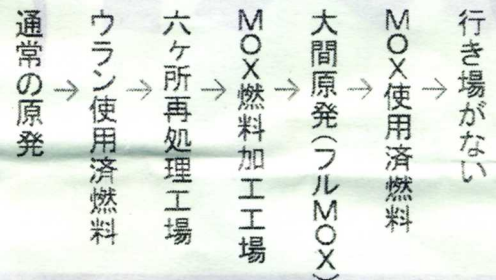
- 大間原発の敷地近海の活断層はマグニチュード7クラス以上の地震を起こす可能性があります。また、原発直下に活断層があることも指摘されています。詳しくは裏面の新聞記事をご覧ください。

発電した電気はどうするか未定

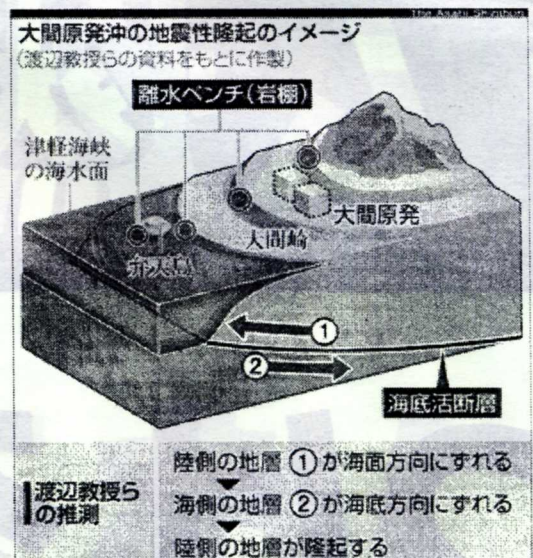
- 発電した電気が、どこにどれだけ運ばれて使われるか、まったく未定です。



サイクルしない核燃料サイクル
実際は・・・



(FFTV 2012年10月3日放送より)



朝日新聞北海道版企画特集【置き去りの活断層 大間原発】(2012年5月12日)より

※問い合わせ先：プルトニウムなんていらぬよ！東京 高木章次 090-9130-0995
フクロウの会 阪上 武 090-8116-7155
国際環境 NGO FoE Japan 満田夏花 090-6142-1807